

大田静間道路発掘調査だより

しずのいわや
静之窓 第2号

平成 29 年 12 月 18 日発行

発行：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

尾ノ上遺跡・平ノ前遺跡・桜田遺跡監督員詰所

TEL 0854-84-5082

御堂谷遺跡監督員詰所

TEL 0854-83-7122

御堂谷遺跡の発掘調査が終了!

7月から開始した大田静間道路の発掘調査の経過について、お知らせします。10月に、現地説明会を開催した御堂谷遺跡の発掘調査が終了し、数多くの成果を得ることが出来ました。地元の皆様をはじめ、ご協力いただいた関係者の皆様にお礼申し上げます。今後は、平ノ前遺跡(静間町)、桜田遺跡(鳥井町)の終了に向けて、職員・作業員一丸となって頑張っていきます。

みどうだに 御堂谷遺跡(大田市鳥井町・長久町)

御堂谷遺跡では、A区とB区の2箇所が発掘調査を行いました。A区では、古墳時代中期(約1600年前)頃の竪穴住居が2棟発見されています。そのうちの1棟からは、土製^{まがたま}勾玉が出土しました。本来、お祭りの場で使用される土製勾玉が竪穴住居から出土することは、とても珍しいことですが、なぜ住居跡から見つかったのか謎が残ります。また、弥生時代後期(約2000年前)頃の竪穴住居1棟や加工段や落とし穴など、多数の遺構が発見されました。

B区では、弥生時代中期(約2100年前)の竪穴住居が1棟、弥生時代後期の竪穴住居が4棟、奈良時代(約1300年前)の竪穴住居が1棟発見されました。弥生時代中期の竪穴住居からは、ガラス玉が出土しています。当時の日本列島でガラスを作る技術がなかったため、大陸からもたらされたものと考えられます。当時の人々の交流範囲の広さを知ることができる貴重な遺物です。また、弥生時代後期の竪穴住居の1つからは、多数の炭化した木材が出土しており、火事等によって焼失した住居であることが分かりました。さらに奈良時代の^{とうみょうざら}灯明皿の出土や山門と考えられる建物が見つかったことから、山寺など仏教関連の施設があったものと推測されます。

御堂谷遺跡は、弥生時代～古代(奈良・平安時代)にかけての大規模な集落遺跡であり、この地域における人々の暮らしぶりや集落の在り方を知るうえで、大変重要な遺跡であると考えられます。

H29 大田・静間道路予定地内の埋蔵文化財発掘調査箇所

